

「花のみち45」に咲く遊休農地解消への思い

気仙沼市では、国道45号気仙沼バイパスを「花のみち45」と呼び、道路沿いに花壇を配置し、運転者の目を楽しませている。

植栽や維持管理をしているのは、沿線自治会や学校、市民ボランティアなど。

これまで、農業委員等は自治会等の一員として各自で関わってきたが、今年、花壇に空きが出たという話を聞きつけた委員の提案で、農業委員会として花壇を確保し、6月上旬に植栽を行った。



提案をしたのは、農業委員を務める畠山盛信さん(72)。遊休化しそうな農地に景観植物を植え、荒廃を防ぐとともに、地域の環境美化を図れないものかと思いを巡らせてきたが、近隣住民等の理解を得ることに苦慮していた。

畠山さんは「まずは、自分たちが景観植物を育てる姿とその花の美しさのアピールから始める」と気合も十分。来年も、農業委員会として植栽を継続する。

サルビアなどの色鮮やかな花は10月頃まで楽しむ、これからはコスモスも華を添える。

三陸自動車道が整備され、バイパスを利用しないという方も、気仙沼に来たら、最寄りのICから降りて、花のみちを走ってみては。

